

Web サイトやプレゼン資料における雰囲気について

Image creation tool for websites and presentation notes.

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 伝わるデザイン研究室
横井晃佑 指導教員 川崎紀弘

web サイトやプレゼン資料における雰囲気が変わる要素を探し、情報の伝達をスムーズに行うためのツールの制作を行う。

キーワード：web サイト, プレゼン資料, 色, フォント, 画像

1. 研究目的

以前に私が、web サイトやプレゼン資料の制作を行う際に、様々な作品を見てそれらの作品はどれも一貫した雰囲気が存在したが、私にはうまく表現することができなかった。そこで web サイトやプレゼン資料の雰囲気とは、どのような要素が変化することで、変わるのかについて疑問を抱いた。本研究の目標は、情報を伝える媒体である web サイトやプレゼン資料の雰囲気作成によって、伝えたい内容の方向性を明確にし、情報の伝達をスムーズにするためのツールの制作を行う。

2. 調査内容

調査 1

サイトのテンプレートを作成し、フォントと色（配色）のみの変更によって、サイト全体の雰囲気が、変更出来ているかどうかについて調べた。その結果、全体の雰囲気は変化しているが、雰囲気の方角性が曖昧で、伝えたい情報の伝達ができているとは言えないデザインになった。サイトのテンプレートで変更していない要素が原因であると考えられるため、主な原因は「画像」と「構成」の二つにあると仮定した。

調査 2

調査 1 によるサイトのテンプレート作成にあたり、web サイトのテンプレート(1)から画像と色を変更した二つを比較してみると雰囲気は変化していた。調査 1 の原因は「画像」の比重が大きいと考えた。(図 1)



図 1 色と画像を変更したサイトの比較

調査 3

色とフォントと画像について調査を行った。相馬は『色彩の心理効果』より、色の連想と呼ばれる、色を見たときに、何かを思い浮かべる効果がある[1]と述べている。

石原らは『フォントの違いによるイメージの伝達効果』より、フォントのイメージは他のフォントとの参照やそのフォントが置かれた環境に左右される[2]と推測している。

画像の持つ印象については様々な研究が行われている。しかし画像が持つ情報量は非常に膨大であるため、モノクロ画像や、顔の表情の画像、テキストデザイン画などの限定的な条件における、印象の研究が多いのが現状である。[3]-[5]

以上の調査から、置かれた環境に左右されるという性質を持つ「色」と「フォント」は、画像が与える印象に影響を受けやすいと考えられる。そのため、雰囲気の統一には画像は最も重要となると推察した。現在の研究では、分析等で画像が持つ印

象を言語で表現するのは難しいことから、人間の感性を用いて画像に合わせたフォントや色を選択するツールを制作する。

3. アイデア展開

デザイナーが制作した web サイトやプレゼン資料の、画像と色とフォントを用いた構図を用意し、それらを自由に変更できるツールを作成する。その調査の際に、画像の役割によって、異なる構造が見受けられた。伝達内容を補足する役割としての、グラフや三面図、商品などの画像と、印象を与える役割としての、使用イメージ画像の二つがあることが分かった。それぞれ全く異なる、テキストと画像の配置だったため、それぞれに対応した構図を複数用意する必要があると判断した。

ツールの構造は、左側にプレビュー画面、右側にメニュー画面を配置した。色の変更はカラーピッカーを用いて、フォントカラーと背景を変更可能にする。フォントはグーグルフォントから 30 個程用意する。画像は Windows ではエクスプローラーから、Mac では、Finder から選択可能にする。(図 2)

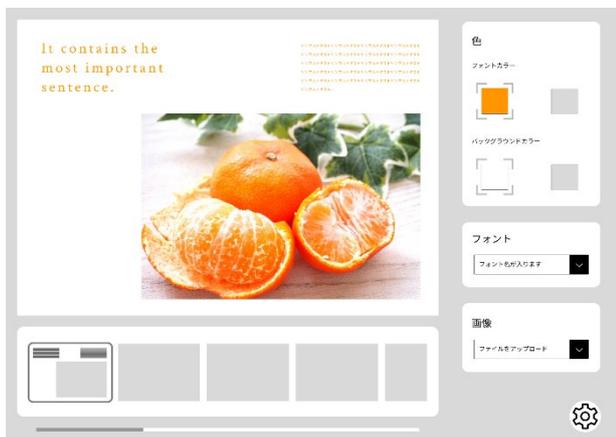


図2 ツールのモックアップ

4. 今後の予定

引き続きツールの制作を進めるとともに、使いやすいツールの制作を目指す。

5. 参考文献

[1]相馬一郎 1985 色彩の心理効果 p34-43.

[2]石原, 次郎, 熊坂, 亮 2002-12 フォントの違いによるイメージの伝達効果 29_p25-40.pdf

[3]安田禎仁, 増田稔 2005 画像の持つ特徴と与える印象の関係の一考察 p21-31

[4]中村充志, 瀧澤生, 星泰成, 綱島秀樹, 陳キュウ 2018 画像の感性を反映させたフォントの自動生成手法 p523-529

[5]諸原雄大, 近藤邦雄, 島田静雄, 佐藤尚, テキストスタイルデザイン画像におけるイメージ・カラーの選定法 1995 p329-337

6. 注

(1)『Template Party』というサイトのテンプレートを使用した。 2024/10/15